

Cantabile

2020. March

Vol.15

発行

山形県音楽教育連盟
山形県小中学校教育研究会音楽部会

発行日

令和2年3月31日



音楽科の教師力を磨く研修に行こう

会長 岸 純一

全日音研も令和元年度に五十周年を迎えた。その記念東京大会に参加した。七生緑小学校の後藤明子先生の合唱の授業は、子どもがベアやグループで合唱表現を磨き合う圧巻の授業であった。一人一人の子どもたちの学び合う様子は、正に、感じて考えて表現して学び合う姿であった。

昨年度の東北音楽教育研究大会山形・庄内大会の感動から早くも一年が過ぎた。大きな大会の開催は、労も多いが財産が子どもにも教師にも残るものである。どんなに歳をとっても学びたい。

今年は、震災の影響から一度開催を見送った福島県で、十二年ぶりに東北音研が開催された。九月十月の豪雨で大きな被害と影響を受けながらの開催でもあった。子どもたちも先生方も、着実に日々の音楽教育活動を通して成長をしている姿は美しかった。令和二年度は宮城県七ヶ浜町で開催され、令和三年度は青森県八戸市で全日音研全国大会として開催される予定である。

本県では、令和六年村山地区を会場に開催される東北音研が直近の大きな大会となる。さらに、令和十二年度の東北音研をはさんで令和十八年度には全日音研全国大会が本県で予定されている。

音楽科教育は、大会の有る無しにかかわらず、各校における常日頃の一時間一時間の良質な授業や部活動の積み上げが肝心である。子どもが力をつけるには教師が力をつけなければならないのは言うまでもない。研究大会や研修会に主体的な参加を促し、教師一人一人のこれまでの振り返りと新たな学びが、次の授業や活動に活かされることにつなげていかねばならない。

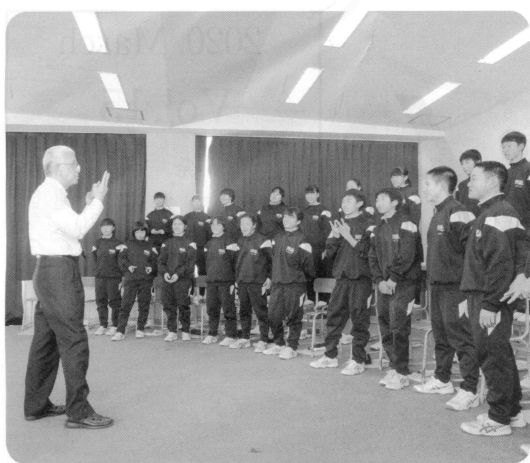
本県音楽教育連盟は、さらに連盟としての各種音楽研修会と事業の充実を図りながら、一人一人の教師に力をつけ、日々の音楽活動の充実を目指していかねばならないと強く心させられた。

村山地区

【小学校部会（歌唱）】

内容 合唱における声づくり「手紙」
会場 河北中学校第二学年
講師 五十嵐 久先生
(庄内町立立川中学校)

西村山地区学校教育研究会の小学校音楽部会では、中学生の合唱における声作りについての指導法を参観した。五十嵐先生には、混声三部合唱曲「手紙」を通して、歌詞の言葉を大切に歌うことや、ブレスの位置、変声期における声のかけや指導等についてきめ細やかにご指導いただいた。生徒はより、やる気と集中力を持続させながら、合唱の楽しさや充実感を味わっていた。その後の講話では、生徒指導をしつかり機能させながら、合唱に取り組むことが質の高い学級集団をつくるには効果的であること等、たくさんのお話を頂き、有意義な研修になった。



【中学校】

期 日 令和元年十月五日（土）
会場 陵東中学校

西村山地区中学校吹奏楽部の楽器別講習会を実施しました。

講師には、山形交響楽団、自衛隊第6音楽隊、PRO WIND 023の皆様をお招きしてご指導いただきました。プロの方の美しい音を間近で聴きながら、楽器の基礎的な奏法や扱い方、楽曲でのフレーズの作り方などを教えていただきました。日頃の練習で悩んでいることを積極的に質問したり、プロの方の響きに少しでも近づけるように練習したりする生徒の様子がたくさん見られました。

今回の学びを大切に、日頃の音楽活動での楽曲分析や美しい音楽の追究につなげていってほしいと思います。

置賜地区

第三十八回合唱指導者講習会【小学校】

期 日 令和元年八月三十日（金）
講師 富澤 裕先生（作曲家・指揮者）
モデル 米沢市立西部小学校
・五年生クラス合唱「まっかな秋」
[A good day]

・六年生学年合唱「旅立ちの日」
富澤先生の発声指導は子ども達にとって無理がなく、自然に頭声的な発声へとつながっていきます。「自分が思っているきれいな声、美しい声で歌ってみましょう。」
「中学生だったらどんな声で歌うでしょう。」という問いに対し、子ども達は自分でイメージした歌声で歌い上げます。音程感や言葉の持つイメージなどを共有する声のかけにより、歌の響きには、さらに輝きが出てきます。歌っている子ども達もそれを体感し、自然と笑顔になっていくのがわかりました。

午後からは、午前中の指導ポイントやそ



の効果など、さらには次の一手などを、身体表現をしたり実際に声を出したりしながら具体的に教えていただきました。



【中学校】

期 日 令和元年七月十七日（水）
会場 高畠町立高畠中学校
講師 富澤 裕先生（作曲家・指揮者）
による合唱指導

富澤先生より一学年合唱「COSMOS」、二・三年合唱「明日へ続く道」の指導をしていただきました。

「自分のなかに意欲や意識があることに気づかせ、自分が成長する力を合唱を通して学ぶ」ということが富澤先生の指導の根底にあり、「さつきよりよくしよう」「こういう声を出したい」と生徒が意識を持つことで、合唱が変わっていききました。富澤先生が短い時間の中で生徒たちの心をつかみ、成長を実感させる姿から、指導者の声のかけの大切さを改めて学びました。

また、午後には午前中の合唱指導の内容を詳しく説明いただきながら、生徒の心をつかむ言葉がけなど指導方法を教えていただきました。

庄内地区

【小学校】

期 日 令和元年十一月十九日
会 場 酒田市立浜中小学校 一年生

授業者 (男子九名 女子四名 計十三名)
高橋 真純教諭

題材 「おとをあわせてたのしもう」
十二時間扱い (本時二時間目)
主教材 「やまびこごっこ」

◎手拍子を使ったリズム遊び、手遊び歌、まねっこ遊びを日常的に取り入れ、楽しそうな雰囲気の中、学習がスタートした。みんなで「やまびこごっこ」を歌った後、少人数(五人、五人、三人)に分かれて、歌い方の工夫を協働的に学び、最後に互いに発表する学習となった。

《県教育センター大宮裕一指導主事より》

☆たくさんの活動が

あり、子どもが一生懸命だったのが良かった。工夫の部分をもっと具体的に示せば良かった。本時の評価は「音作り」か「歌唱」なのか、ゴールを明確にすることにより、評価がはっきりする。その後、大宮先生の資料をもとに、新学習指導要領実施に向けて「指導と評価の一体化」について参加者が学んだ。



【中学校】

期 日 令和元年六月六日 (木)

会 場 庄内町立余目中学校

テーマ 探究型・アクティブラーニングを意識した授業の研究

内 容

① 研究授業

・題材名…イメージをもたらし音楽の秘密を探ろう

映画「ジョーズ」からジョーズのテーマ・授業者…齋藤 裕子教諭

② 研究協議

授業について

音楽の醸し出すイメージがどのような音楽の要素から生み出されるかを聴き取り、考えさせることをねらいとして取り上げた教材であった。まず生徒が感じ取ったことを三枚の付箋に記入し発表した。その後、感じ取った理由を考えるため、着目させた要素のカードを掲示して考えさせた。

生徒たちは、感じ取ったことを音楽の要素に関連づけて発表することができた。また、短い曲であるため、繰り返し鑑賞しながら個々の考えを深めたり、仲間の考えに共感したりしながら鑑賞することができた。

探究型について (各校情報交換)

楽曲のどの部分を取り上げるとか吟味したり、比較できるようなところを提示したりすることで、より音楽の要素を意識し鑑賞させることができるのではないかとという意見が出た。本時は何にこだわって教えるか、何に気づかせたいのか考え教材研究をしていきたい。

(鶴岡第二中 高橋亜貴)

最北地区

【小学校・中学校】

期 日 令和元年十一月五日 (火)

会 場 尾花沢市立福原小学校

内 容

① 公開授業

題材名「曲想を生かして表現しよう」

授業者 五十嵐 明子教諭

(尾花沢市立福原小学校)

② 研究協議会

助言者 岸 純一先生

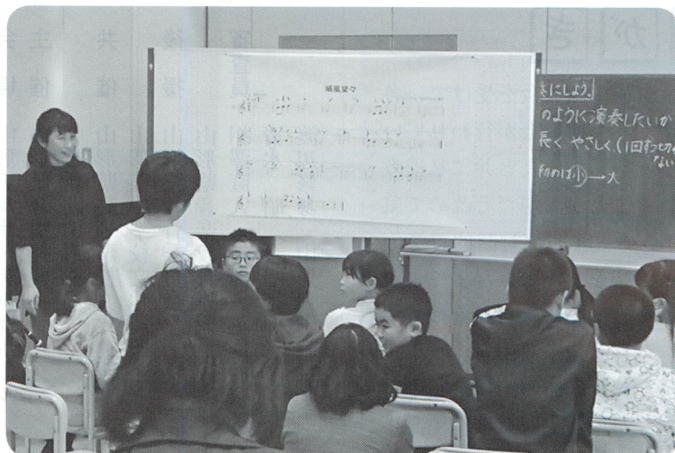
(山形市立第九小学校校長)

「曲想に合った演奏にしよう」というめあてで活動した。「威風堂々」をリコーダーで演奏し、自分達の演奏を録音したものとオーケストラの演奏を聴き比べたり、演奏について振り返ったりすることを繰り返しながら、より曲想に合う演奏表現を工夫していた。班ごとに演奏について意見を出し合って、主体的に活動に取り組んでいた。

タブレットがあったことで、自分たちの演奏を録音して繰り返し聴くことができ、主体的な学習が確立されていた。何度もオーケストラの演奏に立ち返ることで、フレーズを意識したり、「盛り上がりつついく」様子が伝わるように、この部分は二人で吹いてみたらどうか？ など、曲想に合った演奏表現を工夫したりする姿が見られた。鑑賞を通して育てたい子どもの力、演奏を通して育てたい子どもの力を見通して授業づくりをしていくことが大切だということとを学んだ。音楽は、音を楽しむために聴いたり、演奏したりするものだということを念頭に置いて授業を行うことで、子どもたちが音楽に対し親しみをもち、その曲の

より深い部分として曲想までを意識することにも繋げられるということを岸先生の話から学ばせていただいた。

担当 原田麻衣 (楯岡小)



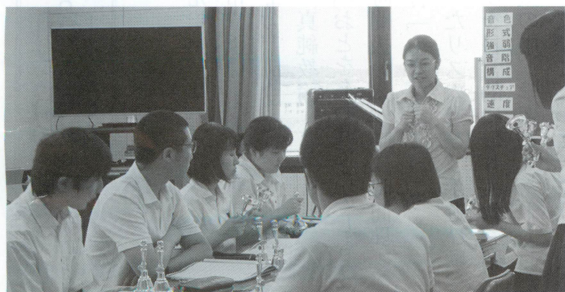
高等学校

六月十三日、十四日の二日間の日程で、県高等学校教育研究会音楽専門部の研究大会が開催された。

一日目は新庄東高校で、午前中、同校小松伶講師による高校一年生を対象にした芸術教科音楽Ⅰの公開授業「ハンドベルを演奏しよう」が行われた。「星に願いを」を教材として、ハンドベルの音色や奏法の特徴を生かし、他者との調和を意識しながら表現を工夫する、生徒主体の活気ある授業だった。

午後からは、県立荒砥高校の本田礼教諭による研究発表「高校生の音楽的基礎能力に関する研究―読譜力と音高感覚に着目して」が行われた。これまでの勤務校での生徒のデータを基に、どのようにすれば読譜力と音高感覚を高めることができるのかを追求している発表であった。学校音楽教育のあり方について皆で考える機会になった。

二日目は県立東桜学館高校に会場を移し、午前中は



文部科学省教育課程調査官 白井学先生の講演を聞かせていただいた。

演題は、「学習指導要領改訂のポイントと学習評価について」。「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、生徒の資質・能力を育成することができる授業をどのように作っていくかという内容だった。学びの内容が明確でない、活動のみに重きを置いた授業にならないようにという指摘があった。今後の音楽科教育の方向性を共有する貴重な場となった。

午後からは、最北地区の教員によるジャズコーラスの研究演奏、参加者全員でジャズコーラス「The Shadow of Your Smile」他を歌い、ジャズの雰囲気味わった。続いて、管楽器工房 Brass さんの協力を得て、ピアノの調律や管楽器のリペアについての専門学校選びについてお話を伺った。また、教育現場で実践できる管楽器の応急リペアについて、実技指導をお願いした。

二日間にわたって、大変充実した内容の濃い研究大会となった。



第71回 全日本合唱コンクール 山形県大会



八月十八日(日) 山形テルサ・テルサホールで第七十一回全日本合唱コンクール山形県大会が開催されました。大会では、東北支部大会への推薦をかけた各団体が練習の成果を披露し、熱演が繰り広げられました。この大会は今年度から小学校部門も新設され、小学校・中学校・高等学校・大学職場一般と全ての世代が参加するコンクールです。普段あまり交流のない異世代の演奏を見たり聞いたりすることは、生涯にわたって音楽を愛好するためのモデルになる貴重な機会となりました。

参加団体(出演順)と東北大会への推薦は次のとおりです。

- 中学校
 - 山形二、鶴岡二、鶴岡五、山辺、酒田四
 - 鶴岡三、酒田三、余目、鶴岡一
- 高等学校
 - 山形東、山形北、鶴岡中央、鶴岡東、羽黒、鶴岡北、山形西、鶴岡南
- 大学一般
 - 東北文教大・YCA、山形大学、コール・ピアーチェ、Chor QT、合唱団 Pianeta、酒田混声、ろすまりん、天童混声、鶴岡土曜会
- 東北支部大会推薦
 - 鶴岡三中、余目中、鶴岡一中、山形西

高、鶴岡北高、鶴岡南高、山形大学、東北文教大・YCA、鶴岡土曜会、ろすまりん、Pianeta、Chor QT

また、今年初めて開催された小学校部門の全国大会で山形県から推薦された村山市立楯岡小学校が金賞を受賞したと、東北支部代表として全国大会一般部門に出場した鶴岡土曜会混声合唱団が金賞を受賞したことを付け加え、山形県の合唱の興隆を誇りに思います。

(山形県立山形西高等学校 吉田朋世)

第七十一回 全日本合唱コンクール山形県大会

- 期 日 令和元年八月十八日(日)
- 会 場 山形テルサ・テルサホール
- 主 催 山形県合唱連盟
- 共 催 朝日新聞山形総局
- 山形県高等学校文化連盟
- 山形県中学校文化連盟
- 山形県教育委員会
- 山形県音楽教育連盟
- 相澤直人(指揮者・作曲家)
- 清水 昭(合唱指揮者)
- 渡辺修身(山形大学教授)
- 審査員

あ と が き

昨年度の東北音研庄内大会を受けて、各地区ですます熱心な研究会が行われているようです。子ども達の成長と共に私達教師も成長していくことが大切だと改めて気づかされました。「主体的で対話的で深い学び」を通して、音をよく聴き、よく表現し、感動する心を育てていきたいものです。

佐藤佳子(山形九小)
鈴木 昭(山形九中)
布川清史(東桜学館高)